

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ミカムロ配合錠 AP	劇
(英名)	Micamlo Combination Tablets AP	
(規格・含有量)	1錠中、テルミサルタン 40mg、アムロジピンベシル酸塩 6.93mg(アムロジピンとして 5mg)を含有	
(一般名)	テルミサルタン、アムロジピンベシル酸塩	
(メーカー名)	アステラス	
【薬価収載日】	2010 年 9 月	
【薬価】	1錠:133.20 円	
【薬効コード】	872149	
【薬効分類名】	胆汁排泄型持続性 AT ₁ 受容体ブロッカー/持続性 Ca 拮抗薬合剤	
効能・効果	高血圧症	
用法・用量	成人には 1 日 1 回 1 錠(テルミサルタン/アムロジピンとして 40mg/5mg 又は 80mg/5mg)を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。	
禁忌	①本剤の成分及びジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ③胆汁の分泌が極めて悪い患者又は重篤な肝障害のある患者 ④アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病患者(ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く)	
相互作用	本剤他剤作用増強 カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン等)、カリウム補給剤、降圧作用を有する薬剤 本剤作用増強 CYP3A4阻害剤(エリスロマイシン、ジルチアゼム、リトナビル、イトラコナゾール等)、グレープフルーツジュース 他剤作用増強 ジゴキシン、シンバスタチン 本剤作用減弱 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)、COX-2選択的阻害剤、CYP3A4誘導剤(リファンピシン等) 本剤他剤副作用増強 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)、COX-2選択的阻害剤、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、アリスキレンフマル酸塩 他剤副作用増強 リチウム製剤(炭酸リチウム)	
副作用	重大な副作用 血管浮腫、高カリウム血症、腎機能障害、ショック、失神、意識消失、肝機能障害、黄疸、低血糖、アナフィラキシー、間質性肺炎、横紋筋融解症、血小板減少、白血球減少、房室ブロック その他 浮動性めまい、体位性めまい、湿疹、貧血、低血圧 等	

(薬品名)	アブストラル舌下錠 100μg・200μg・400μg	劇・麻	市販直後調査 平成 25 年 12 月～平成 26 年 6 月
(英名)	Abstral Sublingual Tablets		
(規格・含有量)	100μg: 1錠中、日局フェンタニルクエン酸塩 157.1μg(フェンタニルとして 100μg)を含有 200μg: 1錠中、日局フェンタニルクエン酸塩 314.2μg(フェンタニルとして 200μg)を含有 400μg: 1錠中、日局フェンタニルクエン酸塩 628.4μg(フェンタニルとして 400μg)を含有		
(一般名)	フェンタニルクエン酸塩		
(メーカー名)	久光		
【薬価収載日】	2013 年 11 月		
【薬価】	100μg 1錠:573.60 円、200μg 1錠:800.40 円、400μg 1錠:1,116.80 円		
【薬効コード】	878219		
【薬効分類名】	癌疼痛治療剤		

効能・効果	強オピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛
用法・用量	通常、成人には1回の突出痛に対して、フェンタニルとして100 μ gを開始用量として舌下投与する。 用量調節期に、症状に応じて、フェンタニルとして1回100、200、300、400、600、800 μ gの順に一段階ずつ適宜調節し、至適用量を決定する。なお、用量調節期に1回の突出痛に対してフェンタニルとして1回100～600 μ gのいずれかの用量で十分な鎮痛効果が得られない場合には、投与から30分後以降に同一用量までの本剤を1回のみ追加投与できる。 至適用量決定後の維持期には、1回の突出痛に対して至適用量を1回投与することとし、1回用量の上限はフェンタニルとして800 μ gとする。 ただし、用量調節期の追加投与を除き、前回の投与から2時間以上の投与間隔をあげ、1日あたり4回以下の突出痛に対する投与にとどめること。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症のある患者
相互作用	本剤作用増強 CYP3A4を阻害する薬剤(リトナビル、イトラコナゾール、アミオダロン、クラリスロマイシン、ジルチアゼム塩酸塩、フルボキサミンマレイン酸塩等)、グレープフルーツジュース、キノジン 本剤他剤副作用増強 中枢神経抑制剤(フェノチアジン系薬剤、ベンゾジアゼピン系薬剤、バルビツール酸系薬剤等)、吸入麻酔剤、モノアミン酸化酵素阻害剤、三環系抗うつ剤、骨格筋弛緩剤、鎮静性抗ヒスタミン剤、アルコール、オピオイド系薬剤、セロトニン作用薬、選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI)、モノアミン酸化酵素阻害剤等 本剤作用減弱 CYP3A4を誘導する薬剤(リファンピシン、フェニトイン等)
副作用	重大な副作用 呼吸抑制、依存性、意識障害、ショック、アナフィラキシー、痙攣 その他 便秘、悪心、嘔吐、傾眠 等

削除医薬品通知

●3月3日より

ミコンビ配合錠 AP

削除

ノズレン細粒 1% 0.5g ヒート

販売中止の為、削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
カソデックスOD錠 80mg	カソデックス錠 80mg
ロラゼパム錠 0.5mg「サワイ」	ユーパン錠 0.5mg
ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用 100mg「サワイ」	ミノペン点滴静注用 100mg
デトキソール静注液 2g (瓶)	デトキソール静注液 2g (アンプル)
ヘパリンCa皮下注 2万単位/0.8mL「サワイ」	カプロシン注 2万単位/0.8mL
ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」	ピコベン錠 2.5mg
オキシドロン徐放カプセル 5mg「テルモ」	オキシコンチン錠 5mg (在庫消尽後削除)
オキシドロン徐放カプセル 20mg「テルモ」	オキシコンチン錠 20mg (在庫消尽後削除)
オキシドロン徐放カプセル 40mg「テルモ」	オキシコンチン錠 40mg (在庫消尽後削除)

剤型追加通知

今回採用医薬品

●3月3日より

イーケプラドライシロップ 50%

ストラテラ内用液 0.4%

適応追加通知

<p>エストラーナテープ 0.72mg</p>	<p>【効能・効果】 性腺機能低下症、性腺摘出又は原発性卵巣不全による低エストロゲン症</p> <p>【用法・用量】 通常、成人に対しエストラジオールとして 0.72mg から開始する。下腹部、臀部のいずれかに貼付し、2 日毎に貼り替え、症状に応じ増減する。 小児では、エストラジオールとして 0.09mg から開始する。下腹部、臀部のいずれかに貼付し、2 日毎に貼り替える。その後、エストラジオールとして 0.18mg、エストラジオールとして 0.36mg、エストラジオールとして 0.72mg へ段階的に増量する。</p>
<p>ダラシン S 注射液 600mg</p>	<p>【効能・効果】 <適応症> 敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p> <p>【用法・用量】 変更なし</p>
<p>硫酸ストレプトマイシン注射用1g 「明治」</p>	<p>【効能・効果】 <適応菌種> ストレプトマイシンに感性的のマイコバクテリウム属、ペスト菌、野兔病菌、ウイルス病レプトスピラ</p> <p><適応症> 感染性心内膜炎（ベンジルペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る）、ペスト、野兔病、肺結核及びその他の結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス (MAC) 症を含む非結核性抗酸菌症、ウイルス病</p> <p>【用法・用量】 [マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス (MAC) 症を含む非結核性抗酸菌症に対して使用する場合] 通常、成人にはストレプトマイシンとして1日 0.75～1g(力価)を週2回または週3回筋肉内注射する。年齢、体重、症状により適宜減量する。</p>
<p>レグパラ錠75mg</p>	<p>【効能・効果】 1. 維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症 2. 下記疾患における高カルシウム血症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 副甲状腺癌 ・ 副甲状腺摘出術不能又は術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症 <p>【用法・用量】 ・副甲状腺癌における高カルシウム血症、副甲状腺摘出術不能又は術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症における高カルシウム血症 開始用量としては、成人にはシナカルセトとして1回 25mg を1日2回経口投与する。以後は、患者の血清カルシウム濃度の十分な観察のもと、1回 25～75mg の間で適宜用量を調整し、1日2回経口投与する。増量を行う場合は1回の増量幅を25mgとし、2週間以上の間隔をあけて行うこと。なお、血清カルシウム濃度の改善が認められない場合は、1回 75mg を1日3回又は4回まで経口投与できる。</p>